

日本地震学会が設立されたのは1880年3月11日である The Seismological Society of Japan was established on March 11th 1880

泊 次郎^{1*}

Jiro Tomari^{1*}

¹ 東大地震研究所

¹ERI

世界で最初の地震学会ともいわれる日本地震学会 (The Seismological Society of Japan) が設立されたのは、これまでの地震学史では1880年4月26日とされてきた。ところが、お雇い外国人たちを中心にして日本地震学会が設立されたのは同年3月11日であることを明記した当時の史料が見つかった。地震学会設立の話し合いは、設立のきっかけになったといわれる横浜地震 (同年2月22日) の1年ほど前から進んでいたことも、これらの史料は物語っている。

日本地震学会の設立日について、先行研究はどのように記述しているかを簡単に見ておこう。宇佐美龍夫・浜松音蔵「日本の地震および地震学の歴史」(『地震』第2輯20巻「日本の地震学の概観」特集号、1967年)には「当時お雇教師として日本に来ていた外国の科学者、技術者に〔横浜地震が〕多大の刺激を与え、同年4月26日、日本地震学会が設立された」(4頁)とある。藤井陽一郎『日本の地震学』(1967年)には、「地震のあったのは2月22日であったが、3月31日には早くも第1回の会合が行われた。ついで4月26日月曜日、地震学会の会員は開成学校の講義室に集まり総会を開いた」(33頁)と書かれている。萩原尊禮『地震学百年』(1982年)にも「第1回の会合は早くもこの年の4月末に開かれた」(5頁)とある。2007年に出版された金凡性『明治・大正の日本の地震学』にも「1880年4月26日に開かれた日本地震学会の第1回の総会で...」(29頁)との記述が見える。

日本地震学会の設立を1880年4月26日とした典拠は、いずれの文献にも示されていないが、日本地震学会が発行した雑誌 Transactions of the Seismological Society of Japan の第1巻の巻頭に掲載されている「1880年4月26日月曜日、会員は開成学校の講義室で総会を開いた」で始まる記事がその根拠になっている、と考えられる。しかしながら、この記事を読み進めていくと疑問も湧いてくる。総会の最初に、公務多忙を理由に地震学会の会長就任を断る工部卿の山尾庸三の3月27日付の手紙(幹事のW.S. Chaplin宛)が読み上げられているからである。山尾の辞退を認めた後で新しい会長選挙に移るが、会長候補に推薦されたJ. Milneは「私は副会長の席を占めているので、もし私が会長になれば、新たに副会長の選挙が必要になる」と発言している。これによって、会長や副会長、幹事の選出は3月27日以前に行われていたのではないかと、この疑いが浮上する。

疑問を抱いて史料を見てゆくうちに、Transactions of the Seismological Society of Japan の第6巻(1883年)40頁に“Annual Reports of the Committee of the Seismological Society of Japan ”という見出しの記事を見つけた。この記事の冒頭には「日本地震学会は1880年3月11日東京大学で、東京と横浜の在住者の多くが集まった会において設立された」と明記されている。さらにその後には「この会の詳しい報告は1880年3月12日のThe Japan Gazetteを見れば分る」とも書かれている。設立してから3年も経ってから設立の経緯に触れているのは、新しく加わった会員にそれを知らせるためであることがその後の文脈から推察できる。

3月12日のThe Japan Gazetteには“ The Formation of a Seismological Society in Tokio ”との見出しで長文の記事が掲載されている。この記事によると、11日の会合にはEwing、Gray、Knipping、Lyman、Milneら約60人が出席し、米国総領事のVan Burenが議長を務めた。Chaplinによって15条からなる会則の原案が読み上げられ、逐条審議の結果、原案を一部修正の上、会則が決まった。そして役員を選出に移った。会長にはKnippingがMilneによって推薦されたが、Knippingは固辞した。最終的には山尾とChaplinの2人の中での投票になり、山尾が選ばれた。副会長、幹事もやはり選挙の結果、それぞれMilneとChaplinが就任することが決まったことなどが書かれている。こうした議事次第からすれば、この会合を「設立総会」と呼ぶ他はない。

3月11日前後に日本で発行された他の英字新聞を調べてみると、3月3日のThe Japan Daily Heraldや3月6日のThe Japan Weekly Mailには、地震学会設立の必要性を訴える論説が掲載されている。これらの記事を読むと、日本に住む外国人の間では約1年前から地震学会設立の議論が進んでおり、横浜地震が起らなくても、地震学会はやがては設立される状況になっていたことも分る。

キーワード: 日本地震学会, 地震学史, 山尾庸三, ミルン, チャップリン, クニッピング

Keywords: The Seismological Society of Japan, histories of seismology